

from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる
関西広域連合のビジネス情報紙

吉川正晃氏●プロフィール

株式会社Human Hub Japan 代表

元大阪市経済戦略局理事。現在、阪急阪神不動産(株)、日本スタートアップ支援協会、ベンチャー企業等の顧問を務める。組織横断型・問題解決型プロジェクトの企画・運営、新規事業立ち上げ、企業経営を経験。肩書・組織・国籍を超えた共創環境づくりをテーマとして活動中。

編集後記

「関西産業人材News Letter」は、今年度から装いを新たに「from NOW ON KANSAI」としてお届けします!リニューアル第1弾は(株) Human Hub Japanの吉川代表からのご提言。取材当日は、トレードマークである「Hack Osaka」のTシャツに身を包み、関西のイノベーション・エコシステムの構築に向けた環境整備、必要人材の確保・育成について熱く語っていただきました。オール関西で“おっせかい運動”を繰り広げ、関西の地に産官学金、全員参加による「世界課題解決取所」をつくる…関西広域連合も様々な取組みを通じ貢献している!と感じました。

「from NOW ON KANSAI」では、産業人材に関し、多様な切り口で情報をお届けしてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

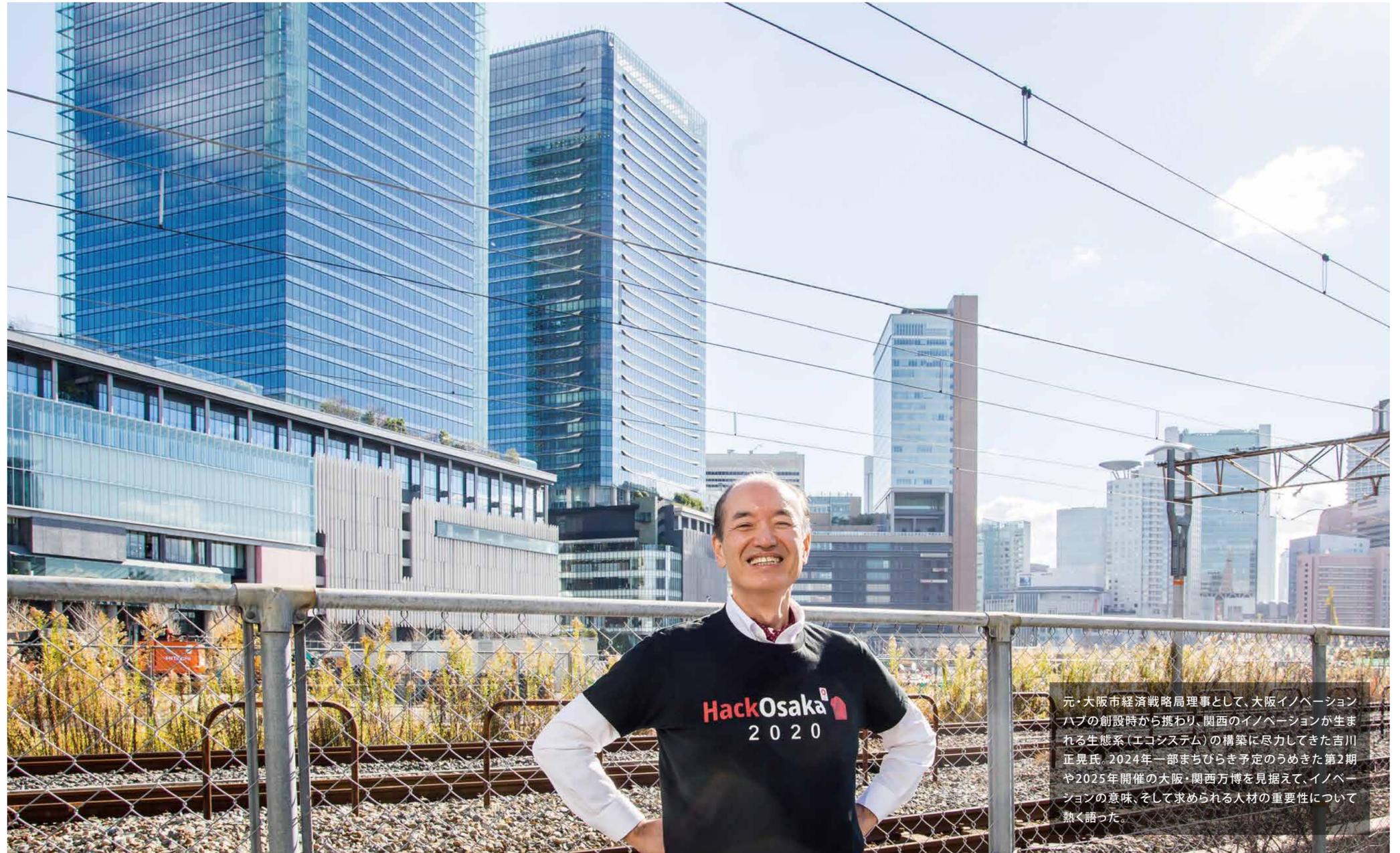
(広域産業振興局:谷川)

関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員募集中!

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



元・大阪市経済戦略局理事として、大阪イノベーションハブの創設時から携わり、関西のイノベーションが生まれる生態系(エコシステム)の構築に尽力してきた吉川正晃氏。2024年一部まちひらき予定のうめきた第2期や2025年開催の大阪・関西万博を見据えて、イノベーションの意味、そして求められる人材の重要性について熱く語った。

発行元

関西広域連合 広域産業振興局
〒559-8555

大阪市住之江区南港北 1-14-16
大阪府商工労働部 商工労働総務課内
TEL06-6614-0950 FAX06-6614-0951

E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ
関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS

グラフィックデザイン●秋山茂之
(株式会社アド・エモン)

フォトグラフ●北尾浩幸

取材ライティング●町田佳子

編集ディレクション●浅野由裕

全員参加で、全体最適を目指す

～関西のイノベーションは、境界を越えた

「おっせかい」運動(「Hack Osaka」)から～



株式会社Human Hub Japan
代表 吉川正晃氏

全員参加で、全体最適を目指す

～関西のイノベーションは、境界を越えた「おっせかい」運動（「Hack Osaka」）から～

イノベーションの必要条件は「集まること」 そこから「突然変異」が起きる。

COVID-19は世界中に広がり、経済活動に影響を及ぼしています。コロナ禍で改めて気づかされたのは、世界が繋がっているということ。そして、マスクなど、どこで造っても作れるものは海外に任せ、高い給料を維持したい日本は、維持できる高付加価値製品を日本で創るという前提があったこと。しかし、現実、どうか。一人当たりGDPの世界ランキングは、2000年以降下がっている。日本は、環境変化に適応できているのか。ここにイノベーションが必要な理由がある。イノベーションとは、新陳代謝のこと。身体の新陳代謝が、生命維持のため絶えず行い、時には突然変異までして環境適応をしている。ですから、私たちがまた、変化に適応するため、全員参加でイノベーション活動をやり続けることが当たり前なんだと思います。

2013年に立ち上った大阪イノベーションハブ(OIH)は「Hack Osaka」をスローガンに、世界につながるイノベーション・エコシステムを関西に構築することを使命にしています。この「Hack Osaka」とは肩書、組織、年代、性別、国籍などを越えて、市民がコミュニティやネットワークをつくり、イノベーションが次々と起こる共創都市を造る運動です。このため大学や研究機関、起業家、企業、投資家といった人々が出会い、繋がる機会を提供しています。

イノベーションという言葉にはいろんな定義がありますが、「既存のさまざまな要素を、新しい意味合いでつなぎ合わせる」という定義もあります。たとえば半導体自体は発明ですが、その半導体をトランジスタにしてラジオと組み合わせてビジネスにできれば、イノベーションになります。トランジスタラジオは、「ラジオを小さくできないか」というニーズから生まれたかと思えます。だから発明は限られた人

かできないけれど、イノベーションは、ニーズや課題を発見できる人なら誰でも起こせるのです。「イノベーション＝発明×ビジネス化」です。課題を発見し「ビジネス化」できる人が起業家です。起業家は、「想いを抱いた人材」のことです。だから大企業の人材もイノベーションを起こせるはずなのです。一方、発明は、大学の研究者が関与します。ですから起業家は、彼らとも繋がる必要があります。起業はひとりではできないのではなく、いろんな人が交錯するなかで、あたたかも突然変異が起こるようになって生まれます。ですから「集まること」が重要なんです。

「課題」と「人」と「技術」が交流する 「世界課題解決取引所」を関西に。

人を集めたら、さらに組み合わせること、交流が大切です。交流の量と質を格段に上げて交わることで繁栄する。これは取引の原理、ハブの本質ですね。私が2013年にOIHで「ハブ」造りを開始したとき、反応は薄かったと思います。ハブと言うと自分たち自身に付加価値がなく、単に流通させているようなイメージを持たれたようです。しかし資源を「循環させ交易させるサービス」こそ、ハブの価値であり、歴史的にも交易拠点や交通の要衝が経済の中心地になっているでしょ。いわばハブは、取引所なんです。この機能を持つハブがイノベーションを生み出し、都市機能を強めていくのです。現在、大阪駅前に広大な都市公園を持つ「うめきた2期」開発が進んでいます(2024年一部まちびらき予定)。開発テーマが「みどりイノベーション」です。私はここに世界の課題を解決するイノベーションの取引所ができればいいと思っています。何を取引するかといえばイノベーションの素になる「課題」と「人」と「技術」です。

大阪には1600年代に豪商・淀屋常安が私財を投資し開発した中之島があります。大名の蔵屋敷が建ち並び、米やさまざまな物品が取引され「天下の台所」と呼ばれていました。また、世界初の米の先物取引市場もありました。未来を予想して現在価値にして取引するわけです。まさに大阪人の「なんでもあり」の自由性が表れています。ですから、うめきたに、未来を見据えて人と課題と技術が集まる場所を創り、世界の課題解決に取り組む人や、それを応援してくれる人、「その夢、買った」というような人が、集まらないかなと思っています。

ビジネスは「誰に」「何を」「どのように」を決めますが、多くのビジネスマンが今やっていることは「どのように」の部分だけです。「誰に」「何を」は、創業者が決めています。ですから、うめきたにすれば、起業家になって、起業家を支援できるようにすればワクワクしませんか？



◀年に一度開催される国際イノベーション会議「Hack Osaka」。今回のテーマは、「ニューノーマル時代に、大阪・関西は強みを生かし、世界に対してどのように貢献できるか」オンライン開催の予定

起業家を多数輩出する 「オープン・フラット・フレンドリー」な土壌。

関西人の何が強いかというと「型にはまらないこと」、「なんでもあり」の精神でしょうね。なぜなら関西人は新しいものに対して非常にオープンで、自由に発想することができます。歴史を遡ってみても、大阪は江戸幕府の直轄領だったのでお殿様がおらず、商人による自由闊達な文化が栄えました。これは関西の重要なDNAです。イノベーションにはユニークな視点からの課題設定力が必要です。それには、自由な発想—OPEN(自由性)と、立場に囚われない平等精神—FLAT(フラット性)、そして相手の問題を自分の問題として考える共感力—FRIENDLY (フレンドリー性)、これを「おっせかい」力と言いかえてもいいですが(笑)、こうした精神が必要です。「OPEN、FLAT、FRIENDLY」精神は、その頭文字を取って「OFF」精神と私は言っていますが、「おっせかい」に、あるべき姿、全体最適を考え、自分の小さな立場を離れる(OFF)する精神が重要だと思っています。これをOIHでの活動の価値観にしました。

そして、これを実践する上で重要な姿勢が、「好奇心」「志」「行動力」です。(頭文字の3つのKから)起業家の「3K」と呼んでいます。まずは好奇心を持つ「なんでやる」と思うんですね、そして「これは皆のために『変えなあかん』」と思うようになる。そしてそれが志に変わり、行動に移るわけです。行動する上においても、関西は、コンパクトな広さを持っているし、経済規模もそこそこ大きいです。距離的には、京都から大阪経由で神戸までが約70kmです。これってサンフランシスコとサンノゼの距離です。シリコンバレーの主要都市間の距離です。また、経済規模も、京阪神に加え、関西広域連合域内全体で見ると、GDPはオランダ一國にほぼ匹敵します。京阪神は大規模集積、それを囲む各府県も固有の強みがある産業集積を持っています。各府県は、個性が違う。よく「関西は一つではなく、一つ一つです」と言われます(笑)が、私は、すごく良い意味でこの言葉を捉えています。これだけの多様性がある、しかもコンパクトにまとまって、経済規模も大きなエリアは、世界的にも見ても少ないですよ。関西は、イノベーションを生み出す条件がそろっていると思いますね。

イノベーション・エコシステムには 人材が育ち、流通する環境が必要。

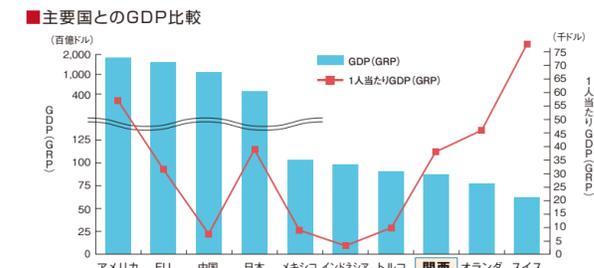
私はとにかくイノベーションには人が最も重要で、次に「流動性」が重要と思っていますから、「Hack Osaka」では、立場、組織に拘らず、OFF精神をもって「全員参加で、全体最適を」と提案しています。イノベーションが目的であって、スタートアップ、起業は方法です。私は、「スタートアップ・エコシステム」という言葉より「イノベーション・エコシステム」という言葉を使ってきました。大企業も大学もみんながイノベーションを生み出す活動に参画することを目指しているからです。

組織・肩書・国籍を越えて全体最適のために協力したり切磋琢磨する。課題が見えるプロデューサーがいて、どの要素とどの要素をつなげるかをOFF精神で考える。変化の激しい時代には多様な専門性を有した人材が集まり、流動的にネットワークを組み替えながら、ダイナミックにチーム編成を行う。あたたかも、ジャズセッションを即興で組むように。そんな「全員参加」の時代だからこそ、会社ではなく「業界」や「地域」に就職する感覚で、境界を越えた共創コミュニティをつくるのが重要だと思います。

この共創コミュニティの実現に向けて、関西ではここ数年大きな動きがみられます。大阪府、大阪市、堺市、大阪産業局、経済団体、大学などが連携し、グローバルに展開するスタートアップが連続的に生まれる環境を大阪につくるため生まれた「大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム」。さらにそれを関西圏に広げ、京都、神戸の各コンソーシアムとも連携して、2020年に国から認定を受けた「グローバル拠点都市」です。今後は国の支援も得ながら、京阪神で連携する動きがさらに強まるでしょう。

また一方で、私は、うめきた2期がオープンする2024年までに「100人のプロデューサーを育成したい」と考えており、T-CEP(Technology Commercialization Entrepreneurship Program)というプログラムをプロデュースしています(主催:うめきた2期推進協議会)。人材育成には、経験が不可欠です。大学の技術をビジネス化するための調査やビジネス計画を立てる実地教育を、関西経済連合会、関西経済同友会さんや大学や研究機関さんの協力で行っています。

また、2025年の大阪・関西万博も、関西には追い風ですね。経済産業省が



◇関西の経済規模
関西は、約90兆円(対全国シェア16.5%・2017年)の付加価値を生み出し、オランダ一國に匹敵する経済規模を有しています。また、約2,100万人(同16.6%・2019年)の人々が暮らし、大きな消費市場でもあります。注:ここでの関西は滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県の合計。

関西の成長産業(ライフ・グリーン)クラスター



「People's Living Lab(PLL)促進会議」を設置し、「未来社会の実験場」として万博を位置付けています。多様な企業が、実証実験を行いながらイノベーションを起こす「共創パートナー」になる制度の募集も行われています。数多くの人、特に若者には参加してもらいたいです。私も「3K」マインドで課題設定する人々のお手伝いをしたいと考えています。これが、「100人プロデューサー育成」計画にも繋がると思っています。

「イノベーションをつくる前に人をつくる」。松下幸之助さんも言っておられるでしょ。「ものをつくる前に人をつくる」と。結局、人、人材なんです。そして人を開花させる経験、場所、環境をいかにつくるかです。そして、ゼロ・イチをつくれる人間、プロデューサー、起業家、創業者と呼んでもいいですが、OFF精神をもって3K姿勢で実行する人がどんどん循環することです。そのために課題、技術を見える化し、出会う場所—「世界課題解決取引所」をつくりたいのです。産官学、全員参加で世界の課題を解決できる関西を創りたい。その一里塚がEXPO2025。うめきたは、頂上アタックのためのベースキャンプです。全体最適を考え、世の中に貢献することを面白いと考える「おっせかい人間」全員が、世界から関西に集結する。おもしろい人はおもしろい人を呼んでくる。そんな好循環が、きっとこの街の発展を加速させるでしょう。



▲うめきた2期イメージパース
大阪駅北の最後の超一等地「うめきた」の第2期エリア「うめきた2期」地区(仮称)。開発区域は北街区、都市公園、南街区に分けられ、北街区は、新産業創出を掲げた「産学官民」の交流ゾーンとなる予定
※2020年12月時点のイメージパースであり、今後変更となる可能性があります。(提供:うめきた2期地区開発事業者)



▲大阪イノベーションハブ
大阪イノベーションハブ(OIH)「大阪から世界へ」をテーマに、新たな事業の創出やスケールアップにつながるイベント・プログラムを開催して2013年に大阪市が開設したイノベーション創出拠点



◀2025年大阪・関西万博
「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、2025年4月13日～10月13日まで開催される日本国際博覧会(略称/大阪・関西万博)